

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

発音に誤りのある子どもの個別指導計画をつくっています。
教育相談に来室した日、
名前、在籍園、在籍校、年齢、
生育歴、主訴
構音器官、単音・単語・文章構音検査、評価、指導計画と指導日
まとめ
を表にしたものです。
教育相談の結果は、毎回書いています。
ことばの教室で子どもに指導したことも、毎時間書いています。
ただ、それとはちがい特別支援教育の実施にむけて役に立てばと思い、まとめ始めてい
ます。
・特別支援教育にむけて <http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/siryou/keikaku.htm>

言語性を伸ばす指導

書くことをいやがる子がいます。
書くことがないと言います。
「書くことはいっぱいあるよ。
書くことで、君しか知らないことを人に伝えることができるよ。
たとえばこんなのは君しか知らないことだよ。
朝、お母さんとどんな話をした？」
ことばの教室に来るまで、どんな話をした？」
と聞いて、原稿用紙に「」だけで書きます。
「きょうの一時分間に何を勉強した？」
と聞いて、連絡帳を見て、思い出し、教科書のページから書き始めます。

それでもなければ、

「きょうの給食は、おいしかった？献立はなんだった？」

と聞いて、献立表を見て、思い出します。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

今日も風が強く、晴れているかと思えば、

雪が舞う天気です。

寒い日です。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

ことばだより No.59

ことばのもり 2004. 2. 4

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

その日は、朝から雨が降っていました。

通級する子どもを待ちながら、窓から外を見ていました。

傘もささないで、帰る子がいました。

ついさっきまで雨が降っていたので、3階から声をかけました。

「もう雨やんでる？」と。

その子は周りを見まわし、3階の方を見上げました。

「はい、もうやんでいます。」

とていねいに答えてくれました。

ていねいに返答されて、少し驚きました。

「ありがとう。気づけて帰りや。」

とまた声をかけました。

そして

「もう少しでいねいに、返した方がよかったのかな。」と思いました

言語性を伸ばす指導

漂泊鳥から

学校のそばの池にこおりがはりました。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

ことばだより No.58

ことばのもり 2004. 1.28

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

スムーズに出てきた「お母さん」と言いにくそうに出てきた「お母さん」とは子どもの
思いが違うのだと、考えられます。

たとえば、スムーズに出てきた「お母さん」にはこんな場面が想像できます。

お母さんと久しぶりに1対1で話せる。

「きょうね、こんなことをしたよ」

「こんなのを見つけたよ」

とつながるのかもしれませんが。

今日の出来事を落ち着いて、ゆっくり話せるのかもしれませんが。

話しにくそうに出てきた「お母さん」には、こんな思いがあるのかもしれませんが。

お母さんは下の子の面倒を見ていて、忙しい。

お姉ちゃんの私がこんなことを話してもいいのかな。

でもお母さんと話したいな。

このことは話しておかないと

と思っているのかもしれませんが。

どちらのときも、子どもの思いを受け止めてあげることって大切ですね。

言語性を伸ばす指導

指導ではありませんが・・・。

ものの数え方が1年の国語の教科書に出てきます。

えんぴつを数えるときには、

1ほん 2ほん 3ほん 4ほん 5ほん 6ほん 7ほん 8ほん 9ほん 10

ぼん

実にややこしい。

1、6、8、10のときは半濁音になります。

2、4、5、7、9のときは清音のままです。

3のときは濁音になります。

漢字の「本」で書いてしまえば、このややこしさはなくなります。

しかし算数では、はやくから、「なんぼんですか？」という問題がでできます。

子どもは「8ぼん」と答えてしまいやすいです。

園の送り迎えのときに、電信柱の数を数えたり、

空き瓶をごみに出すときに、手伝ってもらいながら数えたり、

散歩のときに、咲いている花を数えたり、

しながら覚えさせてあげてください。

___/

漂泊鳥から

冷たい日が続いています。

あともう少しの我慢です。

___/

ことばだより No.57

ことばのもり 2004. 1.2

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

話すときには、理解していることばをつなげて表現しています。

自分の持っている表現力以上にながい文で話そうとすると、

ことばを捜しているうちに 話しにくさが出てくるときがあります。

話すための各器官が協調運動をして、話すことができます。

各器官の協調運動のスピードよりも話そうとするスピードが速い場合にも、

話しにくさが 出てくるときがあります。

身近な大人との関係でよかったのが、子どもの成長とともに、

知らない人とも話さないと いけない場面が出てきます。

今までにしたことのないことでも、しないといけないときがでてきます。
そんなときは緊張もするし、疲れもするでしょう。
それをうまくことばで表現できないでいるのではないのでしょうか。
ある子はぐずって表現しているのかもしれませんが。
またある子は機嫌をわるくして、表現しているのかもしれませんが。
またある子は、話しくくなることで、不安や疲れを表現しているのかもしれませんが。
緊張は、話すための器官に影響を与え、うまく協調運動ができなくさせてしまいます。

言語性を伸ばす指導

ひらがなの勉強も、ま行までできました。

みみ め くち はな くび て あし あたま などのからだの部位のなまえ
ができます。

絵カードと名前カードとひらがな文字カードを使い、対応させていきます。

1回目 顔の絵カード、からだの絵カードを子どもに見せる。

「ここはなんて言うかな？」 と指差し、聞いてみる。

答えが返ってきたら、名前カードを見せて、読んでみる。

子どもが、もう一度名前カードを見て、読む。

2回目 名前カードをばらばらにおいて、部位を指差してみる。

子どもが文字カードを選び、読む。

3回目 ひらがな文字をばらばらにおいて、部位と文字カードを指差してみる。

子どもが文字カードを見ながら、ひらがな文字を一字ずつとりだし、並べて、読む。

4回目 最後に部位を指差してみる。 子どもがひらがな文字を一字ずつとり
だし、並べて読む。

2語文だと あまい すいか つめたい あいすくりいむ(アイスクリーム) う
まい もも

「 も 」を使うと たこも いかも うみに います。 みか(ん)も か
きも くだものです。

みかんも ももも だいすきな くだものです。 など多語文ができます。

___/

漂泊鳥から

雪が降りました。

冷たい冬がやってきました。

___/

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

発音は理解することばがふえ、表現できることばがふえるにつれて、獲得されていきます。

また、大きな運動や細かい運動、協応運動ができるようになるともに獲得されていきます。

発音の中でも、サ行とラ行は発達の声と言われます。

この行の発音には舌先の細かい運動が必要です。

サ行は、サスセソの音とシ音とは、舌の位置がほんの少しちがうところで発音しています。

また息もカ行やタ行の発音のように強い息ではなく、やさしく出す息が必要です。

シャボン玉を大きくふくらますには、息を一気に出さず、やさしくゆっくり出します。

ちょうど、このやさしい息が出せないと、サ行の音は発音できません。

そしてラ行は舌先を口の天井につけて弾けないと発音できません。

ですから、サ行とラ行の発音は一番最後に獲得されると言います。

時期は小学校の入学前後のころです。

言語性を伸ばす指導

3年の下の教科書に「がんばれ わたしのアリエル」という教材があります。

その中に「もうどう犬になる犬は、子犬のころ、パピーウォーカーという里親ボランティアの家に

10ヶ月ほどあずけられて、しつけをうけ、人間とのふれあい方をおぼえさせられる。」
と言う文があります。

書いてある通りに質問するとしたら

「もうどう犬になる犬は、子犬のころ、なんという家に10ヶ月ほどあずけられますか」

「そこで何を受け、なにをおぼえさせられますか」

逆から問うとしたら

「パピーウォーカーと言う里親ボランティアの家に10ヶ月ほど預けられるのはだれですか」

となるのでしょうか。

もう一段レベルを上げると

「パピーウォーカーは、だれを預かり、何を覚えさせるのですか」となるのでしょうか。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

静かに3学期もスタートしました。

風邪を引いている時間はない。

家に帰れば、うがいと手洗いを

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

ことばだより No.55

ことばのもり 2004. 1. 7

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

幼稚園児が話しにくくなるのは 園の経験をいっぱい話そうとしているんです。

理解したことばを整理し、表現に使おうとしているんです。

いっぱい話すことがあるんだと受けとめて、ゆっくり聞いてあげることだと思います。

初めての集団生活で、まわりの人の影響を受けているのではないのでしょうか？

早く話す子もいれば、ゆっくり話す子もいるんだと思います。

入園までは、大人相手に話していました。

自分のペースで話していても、理解してもらえました。

しかし集団の中には、いろんな子がいます。

その中で生活しているから、社会性を身につけ、ことばを増やしていきます。

もしかしたら、話すスピードの遅い子早い子の影響を受けているのかもしれない。

しかし、このマイナスの影響も乗り越えてほしいものですよね。

何よりも、お母さんに園のことを聞いてもらえたという経験をつんでいくことで、話すことへの安心感が育ちます。

安心感が育てば、お子さんの話すスピードも一定になっていくと思います。

言語性を伸ばす指導

一年の教科書にお正月の様子が絵で描かれています。

外では子どもたちが「たこあげ」「こままわし」「ゆきうさぎ」「おしくらまんじゅう」をしています。

ゆうびんやさんが「ねんがじょう」を届けてくれています。

お正月らしい絵です。

しかし、なぜか「はごいた」の「はねつき」はありません。

そのかわりかどうかわかりませんが、「ラケット」でうちあう「バトミントン」らしい絵があります。

家の中では「かきぞめ」「かるた」「すごろく」で遊んでいます。

食卓の上に「じゅうばこ」があり、家族で「おせちりょうり」を食べています。

「じゅうばこ」や「おせちりょうり」「かきぞめ」を知らない子も多いです。

一年に何度も聞くことばではありませんから、覚えていないのでしょう。

ここで教えておきます。

「おおみそか」「もちつき」「としこしそば」「じょやのかね」「はつもうで」「まつかざり」「おとしだま」

などのことばも話しておきます。

なぜ「はごいた」でする「はねつき」がないのだろう。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

一年のはじめですから、やっぱり、

あけまして おめでとうございます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

ことばだより No.54

ことばのもり 2003.12.31

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

ことばは約束事です。

りんごのことを「りんご」と言おうと約束しているんです。

しかし、幼児期の子どもは正しく発音できません。

誤って覚えていることもあります。

それで、「ご」だけを言って、「りんごがほしい」と表現する場合があります。

大人が、その子どものことばを理解して、対応することが大切です。

「そう、りんごが食べたいんだ。」

と答えてあげてください。

思いが伝わったことを、子どもに伝えることで、子どもはことばに関心をよせていきます。

りんごと子どもの目とお母さんの口元を直線で結んで、「りんご」と言ってあげてください。

そして少し模倣するのを待ってあげてください。

赤い皮をむいて、一緒に食べ、子どもの目を見て、笑顔で

「りんご おいしいね。」

と声をかけてあげてください。

そんな積み重ねが、子どものことばを育てていくように思います。

言語性を伸ばす指導

ひらがな文字を各行から勉強をはじめて、は行までくると、いろいろできます。

は行のひらがなを、連続させると

ははははは ひひひひひ ふふふふふふ ふふふふふふ ふふふふふふ ふふふふふふ

と笑い声になります。

母音と続けると

あっはっはっは いっひっひっひ うっふっふっふ えっへっへっへ おっほっほ

っほ

は行の連続とは少しちがう笑い声になります。

反対のことばで、

「ふかい あな」に対して「あさい あな」

せが「ひくい」に対してせが「たかい」

「ふとい あし」に対して「ほそい あし」

「は」「へ」をつかうことで

あなは ふかい。

いけは ふかい。

あしは ふとい。

あしは ほそい。

はなは あかい。

ふねは あおい。

「なにが どんناد」という文ができます。

単語カードに書いて読みます。

読んだあと、

「はなは何色ですか」

「ふねは何色ですか」

と書いてある順番に問います。

「あかいのは何ですか」

「あおいのは何ですか」

と書いてあるのとは逆に問います。

こんな文もできます

おとこの こは えきへ いく。

おとこの こは いえに かえった。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

明日は大晦日。

あさってはお正月。

どうぞいい年をお迎えください。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.53

ことばのもり 2003.12.24
=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

3歳代の子どもは、ことばを学習しています。
しかし、話す器官の発達が未熟なんです。
話そうとするスピードでは動いてはくれません。

わかることばも増えていきます。
しかし、それを使って表現するほどの力も育っていません。
また、自分でできることが増えていきます。
それまでお母さんが「・・・して」というと、その通りしていたのに、「いや」といい始めます。
それで、子どもにやらせると、できないことが多いです。
お母さんの手助けを必要としています。
不安定な時期なんです。
この時期の子どもは、できることが増えていくんですが、できないことがたくさんあります。

言語性を伸ばす指導

あ行～な行のひらがなでこんなことができます。
ここまでひらがな文字を読んできるとずいぶんことばがつながってきます。

たのしい うた

うたうと たのしい

すきな さかな

ちいさい さかなと おおきい さかな

「おおきい」「ちいさい」が弁別できるか確かめてみます。

同じものの絵カードを比べて「おおきい 」「ちいさい 」というように。

ちがうものの絵カードを並べて、イメージで弁別できるか確かめてみます。

ねっことねこ

猫の絵カードを見せて、「これは何？」と聞いてみます。

「ねこ」と答えたあと「っ」を見せて、猫の絵カードの下におきます。

「っ」がこの間に入ると、ちがうものになるよ。なんだろうね。
と聞いてみたら、クイズっぽくていいかもしれません。

・ ~の

おとうとの なす

しかの つの

・ 　　に~

ちいさな えきに いく

おおきな いえに いった

かいに いこう

時制の表現にもつなげそうです

・ ~のなかに

つくえの なか

・ ~のうえに

つくえの うえ

・ ~のした

つくえの した

位置を表すことばの理解に使いそうです。

机の上、下、中にりんごがおいてある絵カードを見せて、

りんごはどこにありますか？

と問い、絵に対応した文字カードを見せ読ますといい。

___/

漂泊鳥から

クリスマスイブ。

いかがお過ごしですか。

1号を発行してから、1年になります。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

___/

=====
ことばだより No.52

ことばのもり 2003.12.17
=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

幼児期の話しにくさについて

だれもが通る道だと思ってください。

大体の子が、経験していますよ。

疲れているんだと思い、ゆっくり聞いてあげてください。

会話するときは、話し手と聞き手がいます。

聞き手の思いは、話し手に伝わります。

話し手の思いは、聞き手に伝わります。

お母さんに、話し手の子どもの思いが伝わっているように、子どもにも胸をいためておられるお母さんの思いは伝わっていると思います。

あなたの話は、お母さんに伝わっているよとやさしい笑顔でお子さんを見つめてあげてください。

いつも聞いているよと笑顔を返してあげてください。

言語性を伸ばす指導

ひらがな文字のあ行からた行でことばの勉強をします。

・ことばあつめから

ち、て、と、たこ、こたつ、とけい、けいと・・・

・「と」が出てくることで、ものを並べることができます。

たこと いか

おとうさんと おかあさん

たかい かきと かたい かき

あたたかい あさと あつい あさ

あつい いたと うすい いた

・反対のことばもできます。

ちいさい たき、て、いけ、とけい、と

おおきい たき(うつくしい たき)

ちかい えき

とおい えき

・舌の動きを確かめることもできます。

かたたたき

こけた おとうと

たいこ たたいて とことこ

＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/

漂泊鳥から

風が、冬の寒さを運んできました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/

=====
ことばだより No.51

ことばのもり 2003.12.10
=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

子どものエネルギーの源は、何か？

ものを目で追い、そのものに手をのばし、そのものをにぎり、そのものをもったままふりはじめます。

ものへの興味や関心が、エネルギーの一つなんでしょう。

人見知りをし、いつも近くにいてくれる大人の後追いはじめます。

守られていることで、エネルギーを溜めていきます。

大人のまねをし、近くにいる大人が対応する。

「自分でする」と主張をし、なかなかできないけれど、自分でやりきる。

大人がそれを見て「できたね」とほめる。

学びつづける中でも、エネルギーを補充していきます。

言語性を伸ばす指導

ひらがな文字を読めるように取り組むときに、行ごとに読めたあとに、列ごとに読むことを目当てにすることがあります。

あ列のひらがな文字を並べて、ことば集めをします。

一字では か、は、

二字では かさ、さか、かた、たか、たな、なた、はな、はら、わら、
かま、さら、かわ、

三字では、からだ、さらだ、

四字では、からから、ぱかぱか、

と並べて、読むように指導します。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

2学期もあともう少し。ラストスパート。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／